

# 子育て期女性の健康に関する調査研究 －産後3年の女性の健康状態－

村松美恵<sup>\*,1)</sup>、黒野智子<sup>1)</sup>、神崎江利子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>聖隷クリストファー大学

## 【目的】

我が国での産後の女性の健康状態についての報告は、出産直後から産後3～4ヵ月頃までの報告が散見され、妊娠・出産が原因と思われる不定愁訴の内容やそれらが解消する時期に焦点をあてた報告はない。本研究は、産後の女性の健康調査票（産褥期健康調査票）を独自に作成し、産後3年の女性の心身の症状の実態を明らかにすることを目的とする。

## 【方法】

対象者：2018年3～10月に実施された静岡県A市の3歳児健康診査のために来所した児の母親（以下、女性とする）全員。方法：独自に作成した無記名自記質問票調査を用い、個別相談時に手渡した。回収は郵送またはWeb上のいずれか対象者が好む方法とした。心身の症状に関する質問項目は、出産後の女性の健康に関する先行研究を参考に49項目設定し、項目以外の症状がある場合は「その他」に記述してもらった。

## 【結果】

479名に配布し回収数132名（27.6%）、次子の妊娠・出産したものを除いた有効回答数63名（47.7%）を得た。対象者の背景：34歳以下26名（41.3%）、35歳以上37名（58.3%）、産後の月数は、 $38.61 \pm 0.7$ ヵ月であった。分娩週数は $38.6 \pm 2.0$ 週、分娩経験は初産25名（39.7%）、経産38名（60.3%）、分娩様式は経膈分娩53名（84.1%）、帝王切開10名（15.9%）であった。就労状況は、就労していない31名（49.2%）、就労中31名（49.2%）、育児休業中1名（1.6%）であった。9割の女性に育児や家事で困ったときに助けてくれる人がいた。心身の症状：1名を除く全員に何らかの症状があり、症状数は平均 $5.6 \pm 3.6$ 項目、最大17項目であった。症状は、妊娠前とくらべて疲れやすい（49.2%）、疲労感（42.9%）、肩こり（39.7%）、頭痛（31.7%）、肌あれ（31.7%）、睡眠不足（31.7%）、腰痛（27.0%）、目の疲れ（25.4%）、首の痛み（23.8%）、物忘れ（20.6%）、性欲減退（19.0%）の順に多かった。不調で受診した女性は12.7%であった。受診しなかった女性は、よくあることだから受診しなかった（22.6%）、受診するほどのことではないから受診しなかった（69.8%）と回答していた。その一方で、子どもを見てくれる人がいなかったから受診しなかった女性が5.7%いた。現在の体調は11.8%が妊娠・分娩による影響、48.4%が育児による影響と回答していた。そして、就労している女性の40%は就労による影響と回答していた。1名を除く全員に心身の症状があるものの、半数の女性は身体的にも精神的にも健康と回答していた。

## 【考察】

我々は、本研究対象と同じ群を産後6ヵ月より健康について調査してきた。その結果、先行研究（村松ら, 2016、村松ら, 2017、村松ら, 2018）と比較すると子育て期の女性の大半は受診するほどではない不調があり、産後6ヵ月から産後3年までの推移では、一定の割合の女性が妊娠出産による不調を感じていることが示唆された。そのため、今後は、子育て期の女性が健康自己管理に活用できる母親健康手帳の開発を検討していく予定である。

倫理審査	■承認番号（17063） □該当しない	
利益相反	■なし □あり（ ）	
発表状況	種別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他（ ）
	年月日	2019年10月11または12日（□確定 ■予定）